

お知らせ

## 堆肥をつくってみませんか



駒場野公園に、野菜くずなどを堆肥にできる環境学習施設があります。家庭から出た野菜くずや果物の皮などを機械で発酵させ、堆肥にする過程を体験することにより、環境について学ぶことができます。見学や体験の申し込み方法の詳細は、区(コード①)をご覧ください。お問い合わせください。

時 毎月第4水曜日  
9:00~11:30(8月は活動休止)  
場 駒場野公園(駒場2-19-70)



▶堆肥化機械



▲堆肥化の活動風景

区環境保全課環境計画係 (☎5722-9356、FAX5722-9401)

お知らせ

## めぐろ福祉しごと相談会にお越しください



区内の介護事業所と障害福祉サービス等事業所が、合同の採用相談会を開催します。福祉の分野で働いているかたのほか、介護・障害福祉に興味があるかたなど、どなたでもお越しください。詳細は区(コード②)をご覧ください。希望者は当日会場へお越しください。

時 7月6日(土)10:00~13:00  
(受け付けは開始15分前から終了30分前まで)

場 総合庁舎本館2階大会議室

内 ●参加事業所紹介(10:00から)

- 事業者別の採用相談ブース  
各事業者への質問や相談だけでも構いません。気軽に各事業者ブースへお越しください。
- 介護労働安定センター・東京都福祉人材センターの職員による相談コーナー  
採用の相談だけでなく、福祉の現場で働いているかたの相談もお受けします。



区高齢福祉課高齢者福祉住宅・施設係  
(☎5722-9843、FAX5722-9474)

お知らせ

## 6月23~29日は男女共同参画週間 女性も男性も性別を超えて 活躍できる社会を目指そう

男女がその性別にかかわらず、個性と多様性を尊重し、自身の可能性を信じて誰もが生きがいを感じられる社会を目指して、相談や学びの機会を提供しています。

6年度の男女共同参画週間キャッチフレーズ(内閣府)  
「だれもがどれも選べる社会に」

男女平等・共同参画センター  
(中目黒2-10-13 中目黒スクエア内)は  
さまざまな事業を行っています(コード③)



講座開催

男性向けの家事・育児、キャリアアップ、性の多様性などに関する啓発講座を開催しています。

6月29日(土)には、男女共同参画週間講座「一人一人が自分らしく生きられる仕組み作り」を開催します。

詳細は、区(コード④)をご覧ください。

ワークライフバランスの推進

区民や区内の中小企業などを対象に、講座等を実施し、普及啓発を行っています。

資料室

男女共同参画や女性の抱える問題についての豊富な資料(約15,000冊)をそろえています。

相談事業

女性の心・体・法律、LGBTの相談を受け付けています。

男女平等・共同参画パネル展

男女が平等に共同参画し性の多様性を尊重する社会づくり条例や、条例を推進する計画、区の取り組みを紹介します。

時 6月21日(金)16:00~6月28日(金)15:00

場 総合庁舎本館1階西口ロビー

区男女平等・共同参画センター(☎5721-8570、FAX5721-8574)

語ろう人権 家庭で地域で

## 心の輪 日常生活に潜む人権侵害



区人権政策課(☎5722-9214、FAX5722-9469)

日常での、ちょっとした侮辱

マイクロアグレッションという言葉聞いたことがありますか。「自覚なき差別」「小さな攻撃性」などと訳され、何げない一言で他人を見下す行為を指します。

例えば、外出中の女性に、「今日は、お子さんを誰が見ているの」と尋ねたことはありませんか。その背景には、男性は働き、女性は家庭を守るという固定観念が潜んでいるかもしれません。「女性でも社長なんてすごい」「外国人なのに日本語が流ちょう」なども、性別や出身地の属性に基づく特性を暗に決めつけ、相手を軽んじています。肝心なのは、悪意があるかどうかではなく、受け手が不快と感じるかどうかです。

受け手がモヤモヤを感じているかも

社会の多数派は無意識に発しており、すぐには否定的な意味に気が付きません。しかし、日常で頻繁に繰り返されると、あからさまな差別よりも、心身に深い傷を残すと考えられています。被害を受けやすいのは、女性や性的マイノリティー、外国人などの少数者です。「あなたの属性を気にしていない」と慰めつつもりの言葉も、相手が過去に感じてきた侮辱を無視

する行為と受け取られれば、二次的な被害を生むことがあります。

どんな人にも潜在的な偏見がある

自分は平等で善意に満ち、差別など決してしない人間だと信じている人ほど、自分が加害者になっていることに無自覚な傾向があるといわれています。大切なのは、差別する側とされる側、誰もが、どちら側にもなる可能性を秘めていると認識することです。

互いに尊重し合う社会を作るためには、多様な人々で成り立つ現代社会と向き合うことが大切です。自分の偏見によって失言をしたかもしれないと気付いたら、それを改善の機会と捉え、すぐに謝罪できるように信頼関係を築き上げましょう。

かつて人権擁護委員として、多くの人から相談を受けてきた辰巳ヒロミさんは、「モヤモヤに気付いたら、一人で悩まずに相談してみたい」と、呼びかけています。自分自身が、何かしら無意識の偏見を持っている可能性に目覚めることから、まず始めてみませんか。

みんなの人権110番  
(コード⑤)  
☎0570-003-110

